出 張 報 告 書

令和２年２月15日

職氏名 市議会議員　　坂本　晴美	用　務 第21回「社会フォーラム」
期　間 令和２年　２月12日から 令和２年　２月13日まで	出張先 ビジョンセンター東京有楽町 東京都中央区銀座1-6-2銀座Ａビル3階

研修受講内容

２月１２日（水）

講義１　　13：00～14：30
「社会保障改革の展望～2040年を見据えて～」
講師：厚生労働事務次官　鈴木　俊彦氏

講義２　　14：40～16：10
「子供をめぐる諸問題（児童虐待、子供の貧困、犯罪被害、見守り、子供食堂」
講師：厚生労働省子ども家庭局長　渡部　由美子氏

講義３　　16：20～17：50
「地域共生と就職氷河期世代への支援」
講師：厚生労働省政策統括官　伊原　和人氏

２月13日（木）

講義４　　10：00～11：30
「2020年度診療報酬改定とこれからの医療」
講師：厚生労働省大臣官房審議官　八神　敦雄氏
（医療介護連携、データヘルス改革、歯科口腔保健担当）

ランチブレイクセミナー　12：20～12：30
「地方自治体における地域包括ケアシステムの取組例」
聴いてトクする社会保障　12：30～12：50

講義５　　12：30～14：00
「社会保障再考―地域で支える」
講師：早稲田大学法学学術院副学術院長　法学研究科長　教授/博士
菊池　馨実氏

【所見】

講義１では、2040年を見据えての人口構造と社会構造の変化について説明された。高齢化は、2025年問題が取り上げられるが、実際は、2030年をピークに減少し埼玉・千葉では、1.5倍を超える一方、山形県・秋田県では1.1倍を下回るなど地域間で大きな差がある。我が国の出生率は国際的に最低水準で、長期的な少子化の傾向が継続している。また、今後単身世帯、高齢者単身世帯、ひとり親世帯ともに増加し、2035年には、単身世帯が約4割に達するという。

「今後日本はどうしていくのか」そのための、2040年を見据えた社会保障のヴィジョンつくりについて説明された、就業者数の推移を通して、お金があっても人がいなければ成り立たないという視点から、体が続く限り働きたいという日本人の希望もかなえながら、考えていくことの大切さも話された。高齢者の人口の伸びが落ち着き、現役世代（担い手）が急減していく中で、「総就業者数の増加」と「より少ない人でも回る医療・福祉の現場の実現」が必要である。誰もがより長く元気に活躍できる社会を実現するために、①多様な就労・社会参加②健康寿命の延伸③医療・福祉サービス改革④社会保障の持続可能性（給付と負担の見直し等）の４つの取り組みを進めることが必要である。

色々な課題と展望を説明していただいたが、鈴木事務次官が「期限は決まっている。あとは、何としてもやるだけである。経済が多少動いてもやるという気持ちが大切である。制度があって人があるのではない、人があって制度がある。地域が壊れていく現状があるが、住民の皆さんがしっかりと考えていくこと。物の考え方を変えていくこと。何かをするときに邪魔するような制度や縦割りの壁を壊していくことも大事である」と話されたことが印象に残った。

人があって制度がある、逆算して、今何ができるかではなく、今何をしないといけないかを実行していくことの必要性を感じた。

講義２では、少子化対策への取り組みの主な推移について触れられ、消費税5%引き上げによる社会保障の充実・安定化の全体像について説明された。その中でも平成29年12月に使い道変更されたのが、「人づくり革命―幼児教育無償化・高等教育無償化・保育の受け皿前倒し整備（約32万人分増加）・保育士・介護職員の処遇の改善」である。その中で、「子育て安心プラン」により待機児童解消に必要な受け皿約22万人分の予算を2年間で確保し、遅くとも2020年度末までに全国の待機児童を解消、さらに、M字カーブを解消するために、女性就業率80%に対応できる約32万人分の受け皿整備を2年前倒しでおこなう。放課後児童クラブにおいても小1の壁の解消をしていく。児童虐待の実態にも触れられ、0歳児の割合が47.9%とと圧倒的に多く、加害者の割合も実母が55.1%で、地域社会との接触がない事例は39.1%に上がる。その対策として、児童相談所の体制強化、要保護児童等に関する情報共有システムなどの予算措置が行われることを紹介された。また、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援について、産後ケア事業、新規に若年妊婦等支援事業（コーディネーターの配置・アウトリーチやSNS等による相談支援・緊急一時的な居場所の確保）多胎妊産婦への支援についてなど説明された。

社会保険旬報

地方から考える 社会保障フォーラム

〈あなたの生活向上のために〉

開催のご案内

平成の時代が幕を閉じて、令和の時代が始まりました。

令和の時代の社会保障はどうあるべきなのでしょうか。

人生100年時代の到来を見据えながら、全世代を支えていくための、医療、介護、福祉、年金などの、社会保障全般に渡る持続可能な制度の構築について、一緒に考えてみませんか。

皆様のご参加を心からお待ちしております。

講演予定講師・テーマ

鈴木 俊彦氏 厚生労働事務次官

「社会保障改革の展望 ～2040年を見据えて～」

渡辺 由美子氏 厚生労働省子ども家庭局長

「子どもを巡る諸問題（児童虐待、子どもの貧困、犯罪被害、見守り、子ども食堂等）」

伊原 和人氏 厚生労働省政策統括官

「地域共生と就職氷河期世代への支援」

菊池 馨実氏 早稲田大学法学学術院副学術院長
法学研究科長 教授 /博士（法学）

「社会保障再考―〈地域〉で支える」

※第20回 地方から考える「社会保障フォーラム」
セミナーの様子

日時　2020年2月12日（水）、13日（木）

参加費　2月5日（水）までに 27,500円（消費税込み）をお振込みください。

会場　（貸会議室）ビジョンセンター東京有楽町　〒104-0061 東京都中央区銀座1-6-2 銀座Aビル3階

定員 100名
定員になり次第締切

＜主 催＞
地方から考える「社会保障フォーラム」事務局　〒101-0047 東京都千代田区内神田2-5-3 県俗ビル 社会保障ディフェンス内
TEL 03-3253-0570 / FAX 03-3527-1028

＜協 力＞
（株）社会保険旬報社 / 年金企画出版 / （株）社会保険出版社 / （株）ファクタリング

PROGRAM 第1回 地方から考える「社会保障」フォーラム

2/12(水) 1日目

12:00~	受付開始
12:30~	開講の挨拶、オリエンテーション
12:45~13:45	講義1「社会保障改革の展望 ～2040年を見据えて～」 鈴木 俊彦氏　厚生労働事務次官
13:45~14:15	討議(30分間)
14:15~14:25	休憩(10分間)
14:25~15:25	講義2「子どもを巡る諸問題(児童虐待、子どもの貧困、犯罪被害、見守り、子ども食堂等)」 渡辺 由美子氏　厚生労働省子ども家庭局長
15:25~15:55	討議(30分間)
15:55~16:05	休憩(10分間)
16:05~17:05	講義3「地域共生と就職氷河期世代への支援」 伊原 和人氏　厚生労働省政策統括官
17:05~17:35	討議(30分間)
17:35~	情報交換会　※講師のご参加者はオリエンテーションにて告知します。
18:30	終了

2/13(水) 2日目

9:30~	受付開始
10:00~11:00	講義1「地域における医療と介護の連携」(仮) 厚生労働省ご担当者調整中(決まり次第、http://tirare.jp/ に掲載いたします)
11:00~11:30	討議(30分間)
11:30~12:30 ※12:20~12:30	昼休み(60分間) ランチブレイクセミナー (株)社会保険出版社 間宮 将人氏「地方自治体における地域包括ケアシステムの取組例
12:30~12:50	聞いてトクする社会保障「国民健康保険の都道府県単位化 ― 保険料の平準化は進むか」 (株)社会保険研究所 谷野 浩太郎氏
12:50~13:00	休憩(10分間)
13:00~14:00	講義2「社会保障再考 ― 〈地域〉で支える」 菊池 馨実氏　早稲田大学法学学術院副学術院長 法学研究科長 教授/博士(法学)
14:00~14:30	討議(30分間)
14:30~	終了の挨拶　次回開催のお知らせ
14:35	終了